

2007年度若手の会 開催後記

2007年度若手の会が、8月28日(9:30~17:15)に、研究所棟2階会議室において開催された。

大島総長の開会の挨拶の後、午前の部においては、演者によるスライドセッションを実施した。これは、昨年度の形式を踏襲し、各演者が自身の研究概要をパワーポイントにて3分の制限時間内で紹介するものである。このスライドセッションは、26名の演者の自己紹介も兼ねており、午後のポスターセッションへの導入として、聴衆の興味・関心を引き起こすのに大変効果的であった。また、本セッションは、現在、所内若手研究者が従事する研究の概要について、研究所内全体で共有化できる貴重な機会であったと思われる。

午後の部においては、ポスターセッション(各演者によるポスター展示及び討論)を実施した。実施にあたり、本年度は、昨年度のプログラムを大幅に変更し、1)全演者に対して、在籍責任時間(各演者のポスター前待機時間)を設定し、また、2)その在籍責任時間を2部構成とした。

これらの変更により、質疑応答への確実な対応がなされたことはもとより、比較的余裕のあるスペースで、十分な時間をかけて質疑応答を行うことが可能であった。さらに、演者自身にとっても、他の研究の理解ならびに他の研究者との交流を深める機会が確保されたものと思われる。

その結果として、午前に行われたプレゼンテーションにより、各自の問題意識が既に明確化されていたことも相まって、何れの研究報告においても、活発な討論が行われ、在籍責任時間を超えてもお発表者と聴衆との討議が続く場面が、幾度も見受けられた。

本会においては、研究部や省令室の枠を越え、研究者間の積極的な討論が行われていた。このことにより、専門性の異なる研究者による視点及び研究アプローチについて、理解を深めることとなった上に、演者、質問者双方に新たな研究の着眼点や今後の研究の発展へのヒントが生まれたものと考えられる。さらに、本会は、様々な領域の研究発表を通じ、研究所内における研究内容の情報共有としての役割を担っており、今後の研究活動を展開させる刺激となったと考えられる。

このように、“2007年度若手の会”も、これまでの若手の会と同様に、“異なる研究分野に従事する研究者が一堂に会する極めて貴重な機会”としての役割を十分に果たしたものと思われる。

(文責：長寿政策科学研究部長 荒井由美子)